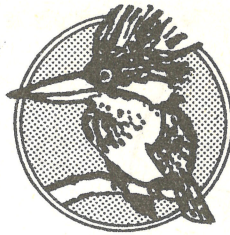


NO.27
2001年1月1日

2001年 宇宙を旅するへびはいない
いるのは冬眠するへびだ
山へ行こう 森羅万象 そこは宇宙だ
あらゆる謎と希望が
満ち満ちて
命はどこから生まれどこへ行くのか
種はこぼれて花開き
しかばね 朽ちて 土から生まれる
ああ ハラがへった弁当だ



やませみ

てんらんざん とうのすやま
天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報



こうして21世紀という名前は
山のあくびに東へ流れて

宇宙の彼方へ...

編集室から
FROM EDITORS



私は「守る会」との関わりが5年ほどになります。『やませみ』も27号となりましたが、お渡しした市民の方に「いつも楽しみにしています。」と声をかけられると、この活動をしていて良かったとつくづく感じます。入会したときは、子供たちに少しでも今ある自然を残してやりたいという気楽な気持ちでしたが、知らず知らずに会との付き合いは深くなりました。これから多くの市民の意見をお聞きし、紙面の充実を...と思っております。
ところで、今年は市議選と市長選があります。昨年は日本各地で新しい風が吹き、市民の力量を実感することができました。この緑豊かな奥武蔵の地にも、新しい風が吹くことを願います。
秋郷

日よう日る里散歩 「里山生きものの調査隊」

■2月11日(日)

「道なき森に足を踏み入れる喜び」の巻
開発計画の中の道路予定地に沿って、道なき森に足を踏み入れます。かなりハードなやぶごぎが予想されます。健脚向きの山歩きです。長靴をお忘れなく。

◇集合 能仁寺山門前 午前9時30分

◇参加費 (任意) 100円

◇持ち物 歩きやすい服装、長靴、お弁当、水筒

◇共催 (財) 埼玉県生態系保護協会 飯能名栗支部

はんのう景観トラスト

■3月11日(日)
「自然の恵み セリご飯」の巻



やませみ NO. 27

2001年1月1日発行

●編集・発行/
天覧山・多峯主山の自然を守る会

●事務局/浅野正敏

0429 (74) 1591

357-0035

埼玉県飯能市柳町 18-17

小船晶子 (72) 4602

●編集局 電話・FAX

鈴木弘子 (77) 0141

申込用紙・やませみは

左記にあります。

谷口眼科・銀河堂・Cafe裏

会員の募集中

◆1995年2月、西武鉄道による巨大団地開発の計画が出されて以来「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、さまざまな活動を続けて参りました。どうぞあなたも会員になって活動を支えて下さい。

会費・カンパ等送り先	一般会員	ファミリー会員	賛助会員	協力会員	無料
天覧山・多峯主山の自然を守る会	2000円	3000円	1000円	0000円	0000円
郵便振替名称	2000円	3000円	1000円	0000円	0000円
00580-9-16342	2000円	3000円	1000円	0000円	0000円

天覧山・多峯主山の自然を守る会2000年の活動記録

- 1月1日◇ふるさと散歩「初日を浴びて初歩きの巻」
 ◇会報「やませみ」23号発行
- 2月13日◇ふるさと散歩「待ち遠しいな春の田んぼの巻」
- 3月12日◇ふるさと散歩「春一るよ来い！鳥よ来いの巻！」
- 4月1日◇会報「やませみ」24号発行
 2日◇東やつ田の保全作業「蓮植とメダカの放流」
 16日◇総会及び講演会「そして干潟は守られた」
 5月5日◇第3回「里山まつり」
 14日◇宮沢湖フリーマーケット出店
- 6月11日◇ふるさと散歩「夏鳥の声に耳を澄ませるの巻」
 24日◇自然学校「ほたるの巻」
 ◇ホテル観察の夕べ、25日・7月1・2日にも
- 7月10日◇会報「やませみ」25号発行
- 8月10日◇「飯能県民休養地構想」について埼玉県自然保護課との懇談
 13日◇ふるさと散歩「朝露に濡れながらの巻」
 27日◇「飯能県民休養地構想」の中間報告書についての勉強会、準備会
 31日◇「飯能県民休養地構想」の中間報告書についての勉強会
- 9月10日◇ふるさと散歩「一般植物調査をやってみようの巻パートⅠ」
- 10月8日◇ふるさと散歩「一般植物調査をやってみようの巻パートⅡ」
- 11月1日◇会報「やませみ」26号発行
 12日◇ふるさと散歩「水辺の生き物とムカゴゴはんの巻」
 19日◇会報「やませみ」美杉台地区、全戸配布
 26日◇第4回奥むさし環境講座「自然と文学・俳句に見る花鳥諷詠」
- 12月3日◇老番市フリーマーケット出店
 10日◇ふるさと散歩「大きな木を探そうの巻」
- その他に◇丸広前、市役所前等で「やませみ」の街頭配布
 ◇会報「やませみ」発行時、会報とは別に会員通信を発行
 ◇毎月2回の定例会の他、調査委員会会談、県民休養地推進委員会
 会議、編集会議及び印刷や発送作業を行っている
 ◇天覧山・多峯主山一帯の自然環境専門別調査の実施（日本自然保
 護協会の助成を受け、10月より本格的に調査に入る）
 ◇東やつ田の保全作業を随時行っている



わたしは
 つねに
 こころ
 いそいで



四十余年前私が小学生であった頃、よくガキ大将に連れられて、近くの山に遊びに出かけていった思い出がある。宮沢湖から神久山、天覧山から多峯主山、名栗川を渡って竜涯山から朝日山、そして阿須の山々へワラビや山栗、どんぐり、キノコなど山の幸を採りに出かけた。洞窟探検をしたり「どろぼうじいさん」と呼んでいた鬼ごっこを、山じゅうを舞台にして遊んだ記憶がある。

その頃考えていた21世紀は、とても遠い未来であった。私は、宇宙旅行が出来るかも知れないなどと夢見ていた。

そして今、21世紀を迎えている。見渡せば、ふるさとの山々の多くはゴルフ場と団地に替わり、子ども達の遊ぶ姿は見えない。

これまで私は、大量生産・大量消費のかけ声にのって豊かな生活を求めて、自分の事のための汗を流してきた。

1993年、飯能河原の割岩橋の袂に11階建ての高層マンションが建つと

いう計画を知ってから、ふるさとの景観の大切さに気づいた。

それから2年後、天覧山・多峯主山一帯に団地開発が進められている事を知り、飯能のシンボルともいえるこの地の景観を残そうと行動した。それをきっかけに、月に一度はこの地に入り観察会を行った。春夏秋冬刻々と姿を変える草木一本、虫一匹に到るまで、命の営みに驚かされる。私達もその自然の恩恵の中に生かされている事を識った。守る会の活動も昨年は環境調査や県民休養地についての学習会などを新たに加え、天覧山・多峯主山周辺の豊かさを再確認することができた。

飯能という街の素晴らしさは、山紫水明の地として名乗れる、身近にあって豊かな自然を背に從えている事だ。

ふるさとの誇りとしての天覧山・多峯主山の景色が今の、そして未来の人々の心に抱かれ続けることをねがいつつ、この大切な宝物を消さないで言い続けよう。

天覧山・多峯主山の自然を守る会代表

浅野正敏

天竺山の両生類と爬虫類

作田 仁

以前に爬虫類研究所に勤務していた事もあって、この度、天竺山・多摩山山の両生類と爬虫類の棲息種調査を依頼されました。7月から9月にかけて公的・私的な調査4回の調査を行いました。この結果と併せて、この地帯に棲息する両生類と爬虫類を紹介してみたいと思います。

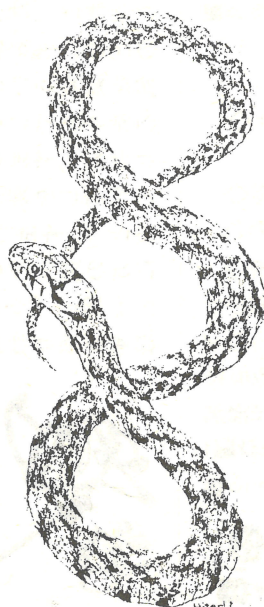
まず生息環境について。調査地域は4本の沢がほぼ南に向かい、全体が南に開けた日当たりの良い土地となり両生・爬虫類とも棲息しやすい土地となっています。

両生類は、今回の調査で5種類が確認されました。一番多く見かけたのは、アズマヒキガエル。小さな個体で、ちようどオタマジャクシから変態して水から出て山腹へ生息地を求めて上ってくる時期にぶつかったようです。かなりの生息数なので、2、3月にはカエル合戦(産卵で水辺にたくさん集まり、

メスの奪い合いをする)が見られるのではないかと思います。アカガエル、ヤマアカガエルはよく似たカエルですが、山腹から山頂の林道ではヤマアカガエル、ホタルの里付近の林ではアカガエルと棲み分けが見られました。シユレーゲルアオガエルはアカガエルに似ていますが、アカガエルよりも大きく林の中で見られます。産卵は田んぼなどの土手の土の中にするので、沢や休耕地から近い部分の林の中で今回見つけました。アマガエルは耕地、休耕地の開けた地域で普通に発見できます。その他、関東地方の田んぼで多く見られるツチガエルやトウキョウダルマガエル、イモリなどが住んでいる可能性があります。また、トウキョウサンヨウウオは雨乞いの池などで産卵が確認されていますが、夏の暑い時期の調査であったので、暑さに弱いサンシヨウウオは見ることが出来ませんでした。成体は水から離れ、林の湿った落ち葉の下などで活動しています。

爬虫類も5種類発見されました。ニホントカゲとニホンカナヘビは、身近に見られるトカゲで、ニホンカナヘビは東やつで、ニホントカゲはホタルの里付近の人家に近い部分の林道で見られました。アオダイショウは見返り坂下で見つけましたが、人家に近い部分で多く棲息しているものと思われま

るからついた名前ですが、実は無毒で大人しいヘビです。今回はヤマカガシと同じく山頂付近で発見しました。カエルやミミズを主食としています。小型のヘビなので見かけることは少ないかもしれませんが、この地にも棲息している可能性が大きいのは、トカゲの仲間では人家付近にいるであろうニホンヤモリ、ヘビではマムシやシマヘビ、発見がとて難しいシロマダラとタカチホヘビが棲息している可能性がります。クサガメ、イシガメ、ミシシッピアカミミガメもニコニコ池にいる可能性がありますが、これは人為的な要素が強いと思われる。今回調査を行っただけで、両生・爬虫類は豊富に棲息している事が伺えますが、これはその餌になる昆虫やミミズなどが豊富と言うことであり、また、両生・爬虫類を主食とする鳥類もまた豊富に棲息できると言う事ではないでしょうか。



ヤマカガシ

第四回 奥むさし環境講座に



1976年の『新撰俳句歳時記』では「歳時記の中に日本あり」とまで言っています。

この後、色々な統計が示されました。例えば、代表的な歳時記の内、全季語に占める動植物の割合は約45%近いと言うことです。重ねて、俳句に出現する動植物の割合などが紹介されましたが、文学の素材としての動植物が半数を占めるのは、世界的にも特異であるという事でした。

さらに、ここに登場する動植物はきれいな花、美しい鳥ばかりではなく「つまらない」草・鳥・花が好んで取り入れられている。西欧文化では、目立つ・美しい物が好まれるが、日本では「名も無き」ものが大事にされる傾向があると

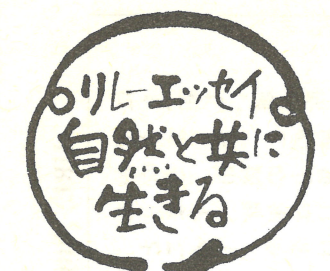
この後30句以上の実例を挙げて句の鑑賞をしました。細部は省略します。



講演の後質問の時間が設けられました。その中で翻訳の問題についての質問が印象に残りました。それは、最近海外でも「Haiku」が流行しているらしいのですが、それはそのまま「俳句」文化の拡大なのでしょうかと問うものでした。答えの要旨は、言語の使用を必須とする芸術表現は、単純に翻訳したり、同じ価値基準を持って他の国に移す事は非常に難しい。難しいと言うより、同質での移植は不可能で俳句はHaikuではないというものでした。さらに進んで、西洋に於ける nature は、日本(東洋)での「自然」ではない。それは「する」と「ある」との大きな違いがあると言ったものでした。

最後に、今回の講演で一番心に浮かんでくる印象は、今まで経済的につまらない、利用価値がないとしか評価されていなかった身近な山の田圃や周辺の雑木林が、私たちの実生活を支えていただけでなく、文化(今回の場合文学)の基礎を創る元であったことがよく分かったということでした。

浅野



『私と森』丸山 隆

森の中では、人はその年齢をすてさって、常に子供となる。(エマソン)

京浜東北線王子駅の線路の向こう側に飛鳥山公園がある。その昔、桜の名所として賑わったところである。東京の下町ともいぬ場所に生まれ育った私にとって、自然にふれあえることのできる場所は、その公園ぐらいいしかなかった。ある日、近所の上級生に連れられて、公園の南側の有刺鉄線の塀に遮られた崖に連れていかれた。太股に有刺鉄線の引つ掻き傷を幾本も作りながら、鉄線乗り越え、足を挫かないように塀からぶら下がり、向こう側に着地する。そこは、人の踏み入れることの少ないかなり急勾配の山の斜面で、木や雑草が繁茂していた。以後この場所は、私たちの聖地であり、遊び場であり、学習の場になった。とにかく遊びに忙しくて、勉強する暇がない私は、この場所へ毎日のように足を運んだ。高さ20メートルほどのその斜面の麓には湧水があり、沼地を形成している場所もあり、何時であったか、水の中ではないかと思えない白い猫の死体を発見したことがある。それは、子供たちのささやかな秘密となり、様々な憶測や物語を生んだ。また、その縁は東北線の線路に接しており、側溝となつてザリガニのつり場になった。すれすれを東北線が通過していく。車掌が見つかると、それから30分ほどで警察がやってくるので、見張りが交代でつき、



カマキリ



ハエ

本能的な恐怖心が徹底的に欠如していた当時の私は、山の斜面を狂ったように雄叫びをあげて走り降りた。当時の私は、自分では制御できずに放出され続ける生命力を支える熱情ともいふべきものを自然にぶつけて、ようやく精神の均衡を保っていたのかもしれない。それはきっと、両親にも、友達にも手に余るものだったのだ。だから私は、彼らを頼ることなく自然を信頼し、くたくたになるまで彼に身を委ねたのだ。

三十路をゆうにすぎ、私は少年時代の熱情を失ってしまったのだろうか。天竺山・多摩山に足繁く入るたびに、私は、かつての私に出会うことがある。道なき道を転がるように降りていく。それは、かつての私だ。そして、かつての私は今の私に、かつての雄叫びをあげると言う。

それは、きっと魂の叫びなのだ。鬱血した喉仏からほとばしる生きることの救いを求める願いなのだ。

その後、その聖地は小綺麗な遊歩道ができ、皆に解放された。王子駅に立つてみるとその遊歩道を初老の夫婦が犬を連れて散歩しているのが見えるかもしれない。私たちのような酔狂を尊ぶ少年の姿を見たことはない。でも、その地に幼少時の私たちの放出されたエネルギーは、きっとその地を包んでいるはずだ。

丸山

